

近畿の地で全国の仲間との繋がりを感じる

2016年5月14日(土)～16日(月)にかけてJR連合青年・女性委員会主催「第21回ユースラリー in きんきら☆きんき」を開催した。熊本地震発生から1ヶ月後ということもあり、ユースラリーの開催について中止する判断も含めて幹事会としても検討したが、今だからこそ仲間を意識することが必要との認識のもと予定通り実施することとした。ユースラリーはJR連合青年・女性委員会最大のイベントであり、全国の仲間が集う大切な機会として、今年は、近畿地協青年・女性委員会を準備機関として企画・運営を担っていただいた。「環～やっぱ仲間ってええやん～」をテーマにして、滋賀・京都・大阪を巡る内容とし、参加した組合員が全国の仲間たちとのつながりを実感できるようなレクリエーション活動となった。



班対抗ウォークラリーでも交流を深めた



少し焦げたご飯に盛った手作りカレーも美味!



JR 連合近畿地方協議会
青年・女性委員会
議長 **細田春菜**

実行委員会でのテーマづくり

近畿地協青年・女性委員会を中心として実行委員会を七回開催し、ウォークラリーの下見やゲームの準備など、何度も議論し、準備を進めてきた。実行委員会ではテーマの選定からはじめた。テーマとした「環～やっぱ仲間ってええやん」の「環」という字には、端がなく終わりのない形という意味合いがある。参加される方々に、全国の仲間との繋がりに感じて頂きたい!その気持ちを形にすべく、一度仲間になると永遠に繋がっているんだという想いを込めた。

仲良くなるチームビルディング

初日は滋賀県立希望が丘文化公園にて、開会式とチームビルディングを行った。開会式では、冒頭、JR連合青年・女性委員会岡本議長より「JR連合青年・女性委員会のスローガンは『つながろう!『仲間』と!』にも創ろう!明るい未来を!』。JR連合の旗のもとに集う、仲間との連帯を強め、理解を深めるユースラリーは、まさにスローガンを実践、体感する場である。友人が傷つき、困っている時だからこそ、集まり、自分たちが出来ることを考えるのが『仲間』である」とあらためて、ユースラリー開催の趣旨について挨拶があったほか、ご

来賓を代表してJR連合の中山政治部長から仲間との連帯について、激励の言葉をいただいた。さらにJR連合青年・女性委員会議長も務めた滋賀県の三日月知事にも駆けつけていただき、歓迎の挨拶を受けた。

初めて会う仲間も多く、まずはチームビルディングを行った。最初に、新聞紙面から一文字を探すゲームを行った。大変、地味な内容ですが、班のメンバーと自然と肩が当たるくらい近づき、パーソナルスペースを縮めることができた。次に、指定されたお題に対してポーズをとる多数決ゲームや絵を繋いで行く伝言ゲームならぬ「伝言ゲーム」など、参加者からは自然と笑顔が溢れた。

そして、もっとも結束力を強めたのは班ごとに作る夕食のカレー作りだった。使用する食材や調味料をそれぞれの班が使用したい物を選ぶという企画で、複数班が同じものを希望した時はドラフト形式で食材を勝ち取ることにした。使いたい食材を得られるか一喜一憂があり、班内の交流を深めることができた。

京都・大阪を巡る班対抗ウォークラリー

班対抗のウォークラリーでは、京都駅を出発地にし、時間内に指定のチェックポイントを周ってゴール地点の新大阪を目指すかたちで行った。京都市内では四

やっぱ仲間ってええやん



全国の仲間が揃ってハイポーズ、恒例の記念撮影



チームビルディング新聞文字探し
で肩を寄せ合う仲間たち

月に開業したばかりの京都鉄道博物館や修学旅行の定番である清水寺や伏見稲荷大社、大阪では通天閣や大阪城など魅力ある観光地のチェックポイントを巡り、記念撮影をしながらポイントを集めるようにした。また、ウォークラリー途中に指令を出し、テーマである「環」を意識して手を繋いだポーズや他の班と一緒に撮影するなど「仲間とのつながり・横のつながり」を広げられるように工夫してきた。

全ての班がゴールした後は、参加者全員で大交流会を開催し、JR連合松岡会長とJR連合近畿地協本田事務局長（JR西労組中央本部書記長）にも駆けつけていただいた。ウォークラリーの順位発表や各エリア連合の紹介をはじめ、各班から集めた写真をもとに作成したムービーを上映し、二日間を通じて深めた、全国の仲間との「絆」をあらためて感じる場となった。

「安全」「組織」「仲間」を学ぶ

最終日は、全国の仲間とさらにより良い未来を築いていくために、「福知山線列車事故から学ぶ」をテーマにJR連合上村総合組織・政策局長に講演を頂いた。事故発生当時の世間の反応やマスコミ報道の煽りの中で、会社が機能不全となった状況と、その時に労働組合として

取り組んだ事柄など、組合員を守るために行動する労働組合としてあるべき姿を学んだ。

また、JR連合青年・女性委員会の松下幹事（JR九州労組青年女性委員長）より、今回の地震による熊本への被災状況についての報告を受け、全国の仲間として取り組めることや、もっと広く全国の仲間呼びかけの必要性などを、考える機会をつくった。参加者一人ひとりが、全国の仲間思いを馳せることで、参加者同士の繋がりと全国の仲間との繋がりを強くできた。

最後に、このユースラリーを閉会するにあたって、参加者全員で「きばろう！九州！」を合言葉に会場が一つとなつて、成功裡に終えることができた。第二回ユースラリーを終えて、JR連合近畿地協として、準備組織としての大役を果たせたことにホッとした安堵感がある。参加した仲間たちの「楽しかった」との言葉に、純粹に心が癒され、やって良かったなと思った。あらためて参加いただいた仲間の皆さま、実行委員会の皆さまに感謝申し上げたい。今後とも全国の仲間との連帯を深め、より一層JR連合運動の「環」を広げるため、JR連合近畿地協青年・女性委員会も明るく魅力ある活動を展開していきたい。